



3-004V7B-00-01
日本ペイント株式会社
製品使用説明書

水性サーモアイウォール シーラー
水性カチオン形外壁用高日射反射率（遮熱）シーラー

□ 特 長

- ・水系、非危険物、1液形なので、臭気が少なく、ポットライフがない取り扱いやすい商品です。
- ・下塗りに使用することにより、塗膜の日射反射率を向上させます。
- ・素地に浸透して、表面強度を高めます。

□ 塗 料 性 状

色		白色				
密度(g/cm³)(23℃)		1.08				
光沢		－				
引火点		－				
発火点		200℃（参考値）				
消防法 表 示	化 学 名	水溶性合成樹脂塗料				
	危険物区分	非危険物				
	危険物等級	－（－）				
有 機 溶 剤 区 分		なし				
毒 劇 物 表 示		－				
有 害 物 表 示		－				
ホルムアル デヒド	登録(認証)番号	－				
	区 分 表 示	F☆☆☆☆				
放散等級	問 合 せ 先	社内試験データでありカタログ及び製品には記載しておりません				
国 連 指 針 番 号		－				
環 境 性 能	クロル ^ビ リス	配合せず	ホルムアルデヒド ^ビ	配合せず	トルエン	配合せず
	キシレン	配合せず	パラジクロロベンゼン	配合せず	エチルベンゼン	配合せず
	スチレン(モノマー)	配合せず	フタル酸ジ-n-ブチル	配合せず	テトラヒド	配合せず
	フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	配合せず	タリジン	配合せず	アセトアルデヒド ^ビ	配合せず
	フェノールカルブ ^ビ	配合せず	鉛	配合せず		
T V O C		5.1%				

□ 塗 装 基 準

荷 姿：
希 釈 剤：
塗 装 方 法：

15kg
水道水

塗 装 方 法	はけ、ウールローラー、エアスプレー
希 釈 率	0～10%
使 用 量	0.10～0.16kg/m ² /回

- ・上記の各数値は、標準的な数値です。被塗物の形状・素地の状態・気象条件・希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- ・上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。

乾 燥 時 間：

	5～10℃	23℃	30℃
指 触 乾 燥	2時間	1時間	30分
塗 り 重 ね 乾 燥	6時間以上	4時間以上	2時間以上

- ・乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

□ 特 記 事 項

- ・遮熱塗料専用下塗りを使用しないと遮熱性能が低下します。必ず専用の下塗りをご使用ください。
- ・絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。著しい結露が発生する場所では、塗料中の水溶成分が表面に溶出し、粘着物などとなって析出するおそれがあります。著しい結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめ致します。
- ・蓄熱されやすい建材（軽量モルタル、ALC、窯業サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルトップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- ・塗装場所の気温が5℃未満、もしくは湿度85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- ・風化面・吸込みの著しい下地や素材にセメント成分などが使われておりエフロレッセンスが発生するおそれがある場合は、溶剤系のサーモアイシーラーをご使用ください。

□ 注 意 事 項

- ・塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などがある場合や、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。
- ・動物はけは、はけが固まったりダマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- ・ほかの水性塗料と混合するとゲル化することがありますので、混合したり、はけ、ローラー、エアレス装置などの共用は避けてください。
- ・容器に小分けする場合はポリ容器をお使いください（鉄製、ブリキ製は腐食します）。
- ・旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などで必ず除去し、清浄な面としてください。付着阻害をおこすおそれがあります。
- ・既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- ・シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- ・素地表面のアルカリ度はpH10以下、表面含水率は10%以下（ケット科学社製CH-2型で測定した場合）、または5%以下（ケット科学社製Hi500シリーズ：コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- ・素地の乾燥は十分に行ってください。
- ・表面のごみ、ほこり、エフロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ・ALC面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ1材力チオンフィラー、ニッペ1材フィラー#200）などで処理してください（合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください）。
- ・材齢の若いコンクリートなどセメント成分が十分に硬化していない場合、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので、溶剤系シーラーをご使用下さい。
- ・屋外の塗装で降雨、降雪のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- ・塗装時および塗料の取り扱い時は、換気を十分に行い、火気厳禁にしてください。
- ・飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- ・シーリング面への塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則として行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ね適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマ-を下塗りすることで、可塑性移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- ・笠木、天端など長時間水が滞留する個所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- ・薄めすぎは隠ぺい力不足、仕上がり不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- ・汚れ、きずなどにより補修塗料が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ・ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- ・上塗りに溶剤系塗料のご使用は避けてください。
- ・塗料は内容物が均一になるようにかくはんしてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、かくはん機を用いて缶底の沈降物を十分にかくはんしてご使用ください。
- ・開封後は一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密栓してから冷暗所で保存し、速やかに使い切ってください。
- ・塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- ・製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート（SDS）をご参照ください。

●本書類の内容については、予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

●本書類中の製品名・会社名は、日本ペイント株式会社、その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。

●Copyright (c) 2014 Nippon Paint Co., Ltd. All rights reserved. ※この書類に対する加筆、修正はご遠慮ください。